

令和8年度 和光市立本町小学校 学校経営方針

令和8年4月
和光市立本町小学校長

1. 学校教育目標

本校の伝統を継承し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指します。

かがやく子（知）：自ら問いを見つけ、深く考え、学び続ける子
ゆたかな子（徳）：自分と他者を大切にし、進んで心を通わせる子
たくましい子（体）：目標を持って、自ら心身の健康をつくる子

2. めざす学校像

【キャッチフレーズ】

「自ら動き、共につくる ～未来を拓く『本町プライド』の育成～」

全職員の指針：

児童が「主役」になれる場を、教職員と地域が「共創」する学校

中央教育審議会の論点整理を見据え、予測困難な社会を生き抜くために、児童が「受け身」から「主体（エージェンシー）」へと変容する姿を目指します。高い学力基盤を活かし、それを社会や生活に繋げる「生きた学び」を展開する学校を構築します。

3. 学校教育目標を具現化するための4つの柱

和光市教育振興基本計画の基本理念を基軸に、本校の課題を解決する4つの柱を設定します。

① 「自ら学びを拓く」 学力育成（知：かがやく子）

○主体的な学びへの転換（自律的な学び手の育成）：

日々の授業を「主体的・対話的で深い学び」へと改善し、特に授業終末の「振り返り」を充実させます。自分の理解度や課題をメタ認知することで、次時まで「家庭で何を学ぶべきか」を児童自身が考え、選択・実行できる自律的な学習習慣を確立します。

○探究的な学びの推進（校内研修の充実）：

「主体的・対話的で深い学びの実現」を研修の柱に据え、国語科を中心とした研究を推進します。言葉を通じて思考を深め、自ら問いを立てて解決していく探究的なプロセスを重視した授業づくりを行い、全教科における学びの質の向上を図ります。

② 「自ら心を繋ぐ」 豊かな心（徳：ゆたかな子）

○「進んであいさつ」の日常化：

指示される挨拶から、相手を認め合うコミュニケーションとしての挨拶へ。児童会活動を活性化し、児童が主体となって「挨拶で繋がる本町小」をプロデュースすることで、自己有用感と規範意識を醸成します。

○地域社会に学び、未来を描く：

地域住民や専門家との交流を教育課程に組み込み、多様な価値観に触れることで、自分たちの学びが社会と繋がっている実感を育てます。

③ 「自ら健やかを創る」 心身の健康（体：たくましい子）

○「進んで運動・外遊び」の習慣化：

児童が休み時間の遊びや運動イベントを自ら企画する場を設け、運動を「課されるもの」から「自ら楽しみ、心身を整えるもの」へ意識変革を図ります。

○「健康マネジメント能力」の育成とウェルビーイングの向上：

変化の激しい社会を生き抜くために必要な、困難に直面しても折れない「粘り強さ」や、失敗から立ち直る「復元力（レジリエンス）」を育みます。自身の生活習慣（睡眠・食育・メディア利用）を客観的に捉え、心身のコンディションを自己調節（セルフケア）できる能力を育成することで、生涯にわたるウェルビーイングの基盤を築きます。

④ 「共に育む」 地域協働・学校経営（社会に開かれた教育課程）

○コミュニティ・スクールの深化：

学校・家庭・地域の三者が「目指す子供像」を共有し、地域の豊かな人的・物的資源を教育活動に積極的に取り入れます。地域との協働を通じて、児童の主体性が発揮される「本町パートナーシップ」を確立します。

○教職員の協働的マネジメント：

全職員が同じ方向を向き、対話を通じて課題解決を図る組織文化を醸成します。和光市教育委員会の指針に則り、校内研修の研究成果を地域にも公開・共有しながら、学校・家庭・地域が一体となって「未来を拓く児童」を育成します。